



▲昨年設置された「第2回愛の句碑」と園遊会での作者と家族のみなさん



▲句碑完成のテープカット（第2回目）

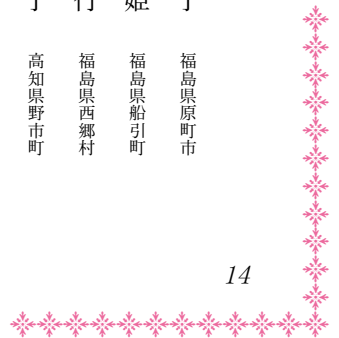
黛まどかさんプロフィール



俳人。神奈川県生まれ。1994年「B面の夏」50句で第40回角川俳句奨励賞を受賞。女性だけの俳句結社「月刊ヘップバーン」代表。1999年北スペイン・サンチャゴ巡礼道を踏破したのに続き、2001年8月より韓国釜山からソウルを走破中（「韓国俳句紀行」として読売新聞にて連載中）
2002年5月、句集『京都の恋』にて第2回山本健吉文学賞受賞。主な句集に『B面の夏』、『花ごろも』。主な著書として『ら・ら・ら』『奥の細道』、『星の旅人』、『聖夜の朝』。NHK教育テレビ『ハングル講座』出演中。日韓文化交流会議委員、文化審議会委員なども務めている。

八十の母に叱られる涼し
赤とんぼ母をさがしに裏畑へ
母にしか読めぬ父の字種袋
汗くさき父でありしよ鎌を研ぐ
朝寝する妻の寝息をそのままに
姉が振り妹が振り夏帽子
十六夜や手箱にねむる母の文
子の寝顔ふと我に似て青田風
虫時雨野良着の妻が灯をともし
再会の水といふ水澄みにけり
菊人形孕寿の母に歩を合わせ
授かつた嫁にみかんの花揺れる
野薊を手折りて夫の戻りくる
鬼灯を上手に鳴らし母元氣
借りて抱く嬰のぬくもり返り花
うすものを着て病妻の見せにくる
春の灯を点すどの家も母がゐて
葛の原ふれあふ夫の掌のぬくみ
兄らしく水鉄砲で打たれけり
夜の秋や母の遺せし鯨尺
呼び逢うて近づくこだまかんこ鳥
夫に子に夏誰よりも白いシャツ
初恋や掌にある桑葚
名月や改札出れば夫がゐて
父の日よ大きく高く作務衣干す

- | | |
|-------|------------|
| 西内 利子 | 福島県原町市 |
| 本田 早姫 | 福島県船引町 |
| 黒澤 正行 | 福島県西郷村 |
| 岩井 純子 | 高知県野市町 |
| 岸下 庄二 | 兵庫県神戸市 |
| 坂野 暁月 | 徳島県徳島市 |
| 浅香 律子 | 東京都足立区 |
| 大川原洋一 | 岩手県葛巻町 |
| 森 酒郎 | 福島県天栄村 |
| 上條亜紀子 | 東京都三鷹市 |
| 河治 シツ | 福島県郡山市 |
| 江尻 一美 | 福島県いわき市 |
| 湯澤 宗子 | 福島県原町市 |
| 城米 文枝 | 奈良県大淀町 |
| 志賀 厚子 | 福島県原町市 |
| 和田 光雄 | 東京都立川市 |
| 赤羽 英子 | 福島県長沼町 |
| 北 文子 | 福島県相馬市 |
| 木幡 幸子 | 福島県原町市 |
| 広田 ユキ | ブラジル国サンパウロ |
| 嶋原 忠夫 | 福島県飯館村 |
| 海老原順子 | 茨城県岩瀬町 |
| 佐藤 みね | 宮城県小牛田町 |
| 藤原 紅 | 三重県亀山市 |
| 金井 敏治 | 埼玉県熊谷市 |



愛の俳句 50句決まる

～春には「愛」が形に～

— 第3回 愛の句碑づくり事業 —

「愛」をテーマに全国から俳句の募集を行い、50句を石に刻んで句碑にする「愛の俳句募集事業」。今年度の入選50句が決まりました。

今年3回目を迎えるこの事業には、昨年、一昨年と全国から家族や恋人などへの愛のメッセージが数多く寄せられましたが、今年も3,261作のすてきな俳句が応募されました。

その中から、俳人の黛まどかさんによって50句が選ばれましたので、ご紹介いたします。

ご紹介した俳句は、来年春には飯舘産のみかげ石に刻まれ、「愛の句碑」としてあいの沢に設置される予定です。



▲まどかさんの句碑もあいの沢に



- | | | |
|------------------|--------|----------|
| 孫の名を間違えている日向ぼこ | 吉松 伸明 | 高知県高知市 |
| 君帰るその日も赤いななかまど | 笹原実穂子 | 北海道札幌市 |
| 叱りたるあと抱きしめて冬茜 | 壽本奈都子 | 福岡県太宰府市 |
| 木守柿小さくなった母といる | 林 マサ子 | 東京都文京区 |
| 白菊や母の形見の割烹着 | 新井田美佐子 | 福島県会津若松市 |
| ふらここを漕ぐしあわせが続くやう | 別所ゆかり | 三重県河芸町 |
| 稲架襖高し夫呼ぶ声高し | 小林美代子 | 神奈川県横浜府 |
| 爽やかや妻の受け取る舐い綱 | 古内 静子 | 福島県原町市 |
| 晩学の妻の一灯青葉木菟 | 斉藤 正 | 福島県いわき市 |
| 退院の夫に用意の白緋 | 廣瀬 直子 | 福島県原町市 |
| 星月夜下駄を鳴らして夫もどる | 大西 逸子 | 京都府京都市 |
| 残されし者残されし春田打つ | 町田 雅子 | 群馬県玉村町 |
| 出稼ぎのお父が帰り除夜の鐘 | 平野くらら | 青森県上北町 |
| もう寝息たてている夫後の月 | 小山 泰子 | 群馬県榛東村 |
| 雪見ぶろおゆをかけあいあそんだね | 岡崎 佑哉 | 東京都町田市 |
| 母帰るけはひに香る梅の花 | 浦田 学 | 三重県伊勢市 |
| 弟を見舞ふ通草を挽ぎにけり | 藤田 トヨ | 福島県矢吹町 |
| 父の日の働く父を見送れる | 山岸 眞 | 東京都練馬区 |
| 夏祭夫の袖に手を添えて | 渡邊 賢一 | 福島県福島市 |
| 子の夢の高く高くとしゃぼん玉 | 秋田 智美 | 愛知県尾張旭市 |
| 厨より夫の声して若葉風 | 桐山 陶子 | 東京都中野区 |
| オリオンのけふ明るくて子の忌かな | 宮木美英子 | 福島県原町市 |
| しばらくは添寝のままに雪見窓 | 木村 亮 | 神奈川県横浜府 |
| 夫笑ひ子も笑ふ水澄みにけり | 笹木 美帆 | 福島県郡山市 |
| 人生に君の芋煮があればよし | 松下 弘美 | 兵庫県神戸市 |